

# 上野通明さん応援レポート 「シャネル・ピグマリオン・デイズ2016」 2016年10月29日(土) シャネルネクサスホール

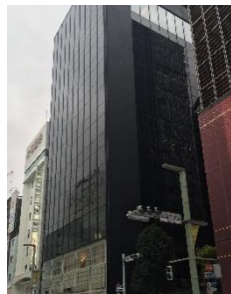
## シャネル・ピグマリオン・デイズ vol.5

「シャネル・ピグマリオン・デイズ」。  
東京・銀座のシャネルビル内のホール、  
シャネル・ネクサス・ホールにて開催されて  
いるこのシリーズ、若手のアーティストに演  
奏機会を提供するプログラムである。  
演奏会の名称は、シャネル社創始者である  
ガブリエル・シャネルが「ピグマリオン＝才  
能を信じ、支援して開花させる人」だったと  
いわれていることからのネーミング。無名時  
代の芸術家達の支援を続けた「ピグマリオン」  
ガブリエル・シャネルのスピリットを踏襲  
して続けられている「シャネル・ピグマリオン  
・デイズ」。

ちなみに、シャネルが支援した無名時代の  
芸術家には、パブロ・ピカソ、イーゴリ・スト  
ラヴィンスキー、レイモン・ラディゲ、ルキノ  
・ヴィスコンティ、ジャン・コクトーら、そうそう  
たる名前が並ぶ。

毎年5名ほどの若手演奏家を支援するこの  
シリーズ、2016年はその中に、チェロの上  
野通明さん、ヴァイオリンの城戸かれんさん  
の財団奨学生2名が選出されている。

それぞれのアーティストは、1月からの1年  
間に、シャネル・ネクサス・ホールにて年6  
回の演奏という素晴らしい機会をいただくこ  
とになる。



会場のシャネル・ネクサス・ホール。  
ブランドロゴと同様に、黒と白で統一された  
ホールはとてもシックな空間。プログラムも  
黒を基調に制作されており会場内一帯が洗  
練された雰囲気である。



6回の演奏会のプログラムは、各々の  
アーティストの自由に任されている。  
テーマ構成や選曲にも興味がわく演奏  
会だ。

上野さんはこのシリーズ、「バッハの無  
伴奏チェロ組曲」1番～6番全6曲を、  
各回一つずつ聴かせてくれるという粋  
なプログラムを展開している。

5回目の本日のプログラムは、バッハ  
第5番と、プロコフィエフのチェロソナタ。  
ピアノは 須関裕子先生。

客席には多くのお客様。無伴奏チェロ  
曲をひとつずつというプログラムを楽し  
みに、毎回重ねていらして下さるお客  
様も。

# バッハ無伴奏チェロ組曲と今弾きたいソナタと



上野さん拍手に迎えられて登場。シャネルのこのコンサートは、着席するお客様の後方から入場し、拍手に送られながら花道を歩いて舞台上がる形式。演奏者と客席が非常に近いという特徴がある。

1曲目はバッハの無伴奏曲第5番。全6楽曲、なかでも、5番と6番が好きだという上野さん。第5番のみ、これまで人前で弾いたことがなかったとのことで、本日が初披露となる。

『チェロの旧約聖書』と称されるバッハの無伴奏チェロ組曲。一台のチェロで旋律と伴奏、そしてリズムという、音楽を構成する要素を表現することになる。無伴奏であるから、もちろん休む間はない。高度なテクニックと集中力が求められる。

全6楽曲のなかでも難しいといわれる第5番、変則的な調弦が用いられているようだ。チェロの魅力でもある渋い低音も美しく、複雑な構成の名曲を、上野さん、見事に弾ききった。

続いて、ピアノの須関裕子先生も登場され、恒例のトークが挟まれる。

「・・・毎回バッハの無伴奏チェロ組曲からひとつ、それと今弾きたいと思うソナタを選んでいきます」とプログラムの説明。

「・・・次に弾くのはプロコフィエフのチェロ・ソナタです」「・・・演奏にあたってプロコフィエフについての評伝を読みました。プロコフィエフはロシア人ですが、スペイン人のリーナさんという方と結婚してフランスで活動していました。が、祖国への想いが断ち切れず、一人モスクワに移住し、妻子を呼び寄せます。それなのに、第二次世界大戦中に妻子を置いて一人疎開し、戦後リーナさんがスパイ容疑の冤罪で投獄されても釈放のために何もすることなく・・・音楽は素敵なんです、あんまり良い人ではなかったみたいです」。上野さんの語り口が、会場の笑いを誘う。

2曲目、プロコフィエフの「チェロとピアノのためのソナタ」が始まる。こちらも今回が初めての披露とのこと、本日は初披露づくしだ。

この曲は、同じくソ連に生まれ、20世紀後半を代表するチェリストであるロストロポーヴィチに影響を受けて作ったといわれる、プロコフィエフ唯一のチェロ・ソナタ。

厳かに快活に、チェロの魅力たっぷりに聴かせてくれた。

大きな拍手に促されての本日のアンコールはダヴィドフ「泉のほとりで」。軽やかで明るい音色に心が癒された。

# ソリストとして、そういう音を出せるように



終演後、須関裕子先生と

終演後、上野さんに話を聞いた。

ーシャネルも5回目；

「…素晴らしい演奏機会をいただいて。この演奏会に向けて準備を行うなかで、レパートリーが増えました」

ーバッハ無伴奏組曲；

「一回目から1曲ずつ順番に演奏させていただいてきたのですが、今日は難しい5番にチャレンジ。これまで5番のみ人前で弾いたことがなかったのですが、これで全曲無事制覇することができたことになりました」  
「…バッハは一生大切に演奏していきたいし、自分にとって特別なカテゴリーですので、次回の最終回(vo.6)の第6番の演奏も自分として悔いのない内容にしたいと思います」

ープロコフィエフは；

「…こちら今回初めてで。僕が一番尊敬しているチェリスト、ロストロポーヴィチに捧げた曲だということで弾いてみよう」と

ー演奏における意識；

「…ソリストとして、そういう音を出せるようにと常に意識しています」  
「…向こうでの演奏機会を増やしたいですし、幅広い経験をしていきたいと思っています。経験することで、理解も深まるというか、“ここはこんな感じだ”という解釈が音楽に活かされると思うので」  
「…それから語学。ドイツ語も頑張らないと(苦笑)」。

幼少期を海外で過ごした上野さん、英語の堪能さはお墨付き。「つつい英語で会話してしまう」とは、うらやましいような。

引き続き演奏会の予定がびっしり。留学先のデュッセルドルフと日本を往復する日々が続く。11月にはベルリンで北村朋幹さんとのデュオ・コンサートの予定もあるそうだ。

「沢山の演奏のチャンスをいただけることに心から感謝し、頑張っていきます！」と、元気に爽やかに締めてくれた。

上野さん、素敵なお演奏でした。  
どこかでバッハ無伴奏全曲演奏会もぜひ！

## <演奏会概要>

### ◆出演

上野 通明[チェロ]

須関裕子[ピアノ]

### ◆プログラム

バッハ: 無伴奏チェロ組曲

第5番 ハ短調 BWV 1011

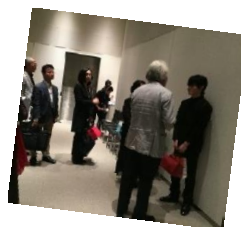
プロコフィエフ:

チェロとピアノのためのソナタ

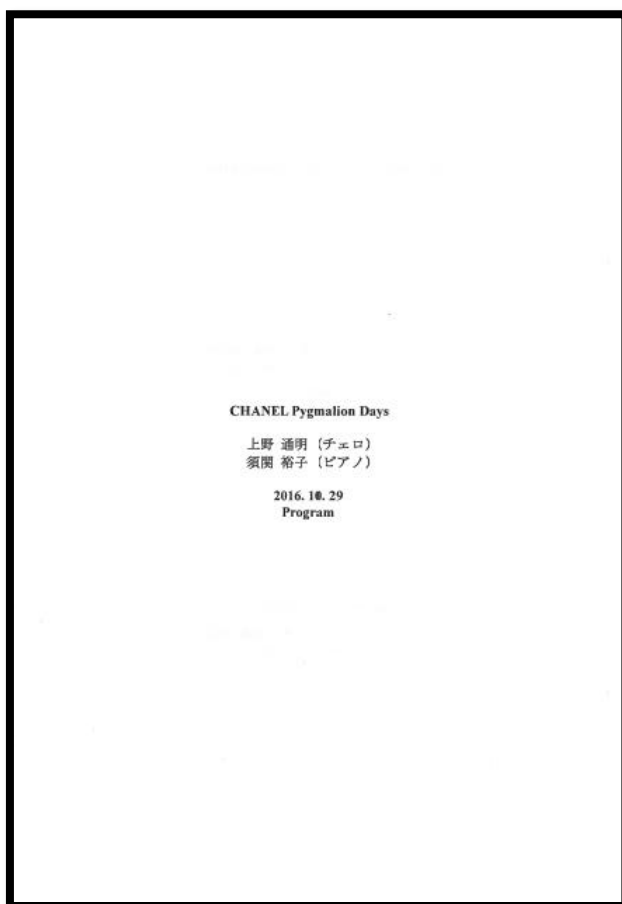
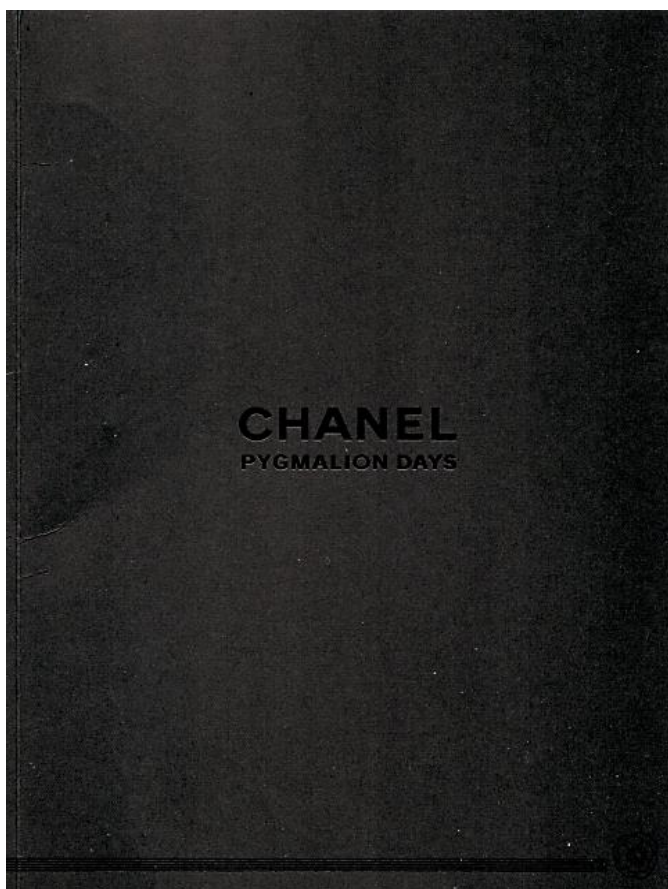
ハ長調 作品119

### ◆アンコール

ダヴィッドフ:「泉のほとりで」



# 【コンサート・プログラム(表紙)】



# 【コンサート・プログラム(プログラム)】

2016. 10. 29 CHANEL Pygmalion Days

---

上野 通明 (チェロ)  
須関 裕子 (ピアノ)

バッハ / *Bach*

無伴奏チェロ組曲 第5番 ハ短調 BWV1011  
*Cello Suite No. 5 in C minor, BWV1011*

*I. Prelude*  
*II. Allemande*  
*III. Courante*  
*IV. Sarabande*  
*V. Gavotte I-II*  
*VI. Gigue*

— 休憩 —

プロコフィエフ / *Prokofiev*

チェロとピアノのためのソナタ ハ長調 作品 119  
*Sonata for Cello and Piano in C Major, Op.119*

*I. Andante grave*  
*II. Moderato*  
*III. Allegro, ma non troppo*

# 【コンサート・プログラム(楽曲解説)】

## 解説

### ◆ヨハン セバスティアン バッハ / Johann Sebastian Bach (1685-1750)

#### 無伴奏チェロ組曲 第5番 ハ短調 BWV1011

バッハはバロック期を代表する作曲家で、数多くのカンタータ、オラトリオ、オルガン作品、器楽作品を残しました。後の大作曲家たちに与えた影響は多大で、「音楽の父」と称されています。また、一族から多くの音楽家を輩出しているため「大バッハ」と呼ばれることもあります。

無伴奏チェロ組曲は、第1番(BWV1007)から第6番(BWV1012)まで全6曲あり、全ての組曲がそれぞれ一つの調性で書かれています。更に組曲の構成は、前奏曲、アルマンド、クワント、サラバンド、メヌエット、ジークの6曲から成る舞曲の形式に則っています。当初、練習曲と目されてきた組曲でしたが、スペインのチェロ奏者カザルスによって、チェロのバイブル的存在となる楽曲として評価され、現在では多くの演奏家の金字塔になっています。どの曲も舞曲としての形式はあるものの、その音楽的構成は多声的であり、複雑な色合いを醸し出す名曲です。

曲番を追うごとに難しくなるというバッハのチェロ組曲ですが、第4番から特に技術的な難易度が高くなります。この第5番は、チェロの変則的な調弦が行われる代表的な楽曲です。第1弦を通常より1全音低めに調弦することにより、ハ短調という調性をより効果的に演奏するようにバッハが考慮したとされています。6つの組曲の調性的な関係性も顕著に練られ、まさにバッハの奥深さが垣間見られる名曲です。

### ◆セルゲイ プロコフィエフ / Sergei Prokofiev (1891-1953)

#### チェロとピアノのためのソナタ ハ長調 作品119

プロコフィエフは20世紀ロシアを代表する作曲家です。1918年にロシア革命の混乱を避け母国を後にしましたが、1936年に残りの人生を過ごすため旧ソ連に戻りました。彼が戻った1930年代はスターリン主義により創作活動が最も厳しく制限されていた時代で、音楽はブルジョアと非難されていました。共産党が芸術関係の全てを監視下に置いていたため、体制迎合的な作品を作りながらも独自の個性的な表現を追求し評価を得ました。

初期のプロコフィエフは「ロシア未来派」と呼ばれた先鋭的な作曲家でしたが、次第に古典的な作風へと回帰していきました。彼の音楽には伝統と個性が交じり合った。他には無い独特の魅力があり、ピアノ独奏曲や歌曲にも特徴的な曲が多く残されています。

この曲は、晩年の1949年頃に発表された唯一のチェロ・ソナタで、アゼルバイジャン出身で20世紀後半を代表するチェロ奏者、ムスティスラフ ロストロポーヴィチの影響を受けて作られました。哀愁を感じさせる第1楽章は、チェロの響きが豊かに美しく、ピアノと対話していきます。第2楽章は三部形式のスケルツォで、チェロの快活な動きが印象的です。第3楽章はハ長調に戻り、力強さを内蔵しつつ静かに終ります。

解説：CHANEL Pygmalion Days プロデューサー 坂田 康太郎

# 【コンサート・プログラム(プロフィール)】



上野 通明

Michiaki Ueno  
Cello

バラダアイに生まれ、5歳よりチェロを始める。幼少期をスペイン、バルセロナで過ごし、数々のコンクールで優勝または入賞。2009年13歳で第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール、日本人初の優勝。翌2010年第6回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽海部門最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化局賞を併せて受賞、ルーマニア各地で5回の連続演奏会に出演。2014年第21回ヨハネス・ブラームス国際コンクールチェロ部門第1位。

これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、ロシア交響楽団等国内外のオーケストラと多数共演。テレビ朝日「聴けない音楽会」、NHKBS「クラシック倶楽部」、NHKFM「リサイタル・ノヴァ」等出演。宗次エンジェル基金、ロームミュージックファンデーション、江刺記念財団奨学生、岩谷時子音楽文化振興財団より「第1回Foundation for Youth」、 「第6回岩谷時子賞奨励賞」受賞、日本ヴァイオリン制作家協会賞対象者。

現在桐朋学園ソリストディプロマコース(特待生)、デュッセルドルフ音楽大学コンツェルトエグザメンコースにて、毛利伯郎、ピーター・ウィスベル・ウエイ両氏に師事。

須関 裕子

Hiroko Susuki  
Piano

桐朋女子高等学校音楽科2年在学中に、第2回チェルニー・スタアフェンス国際ピアノコンクールにて第1位、併せてステファンスカ賞、遠藤節子賞受賞。翌年、クララ・シヨパンの生家などポーランド各地でリサイタルを行う。第18回藤田高弘賞ピアノコンクール第3位。第16回宝塚ベガ音楽コンクール第1位。ドイツで行われた第3回国際室内楽アカデミーにてグランプリを受賞。桐朋学園大学音楽学部卒業、同研究科を首席修了。野平一郎氏プロデュース「ピアノ伴奏法講座」2008～2010年度受講生。秋山和慶氏指揮・大阪フィルハーモニー交響楽団、長田雅人氏指揮・ふじのくに交響楽団、新田孝氏指揮・ニッポンシンフォニー、鈴木秀美氏指揮・静岡交響楽団と協奏曲を共演。NHK-FMや「静響アワー」等出演。ソロ活動のほか、アンサンブル奏者として国内外の多くの演奏家の信頼も厚く、近年では堀剛氏のリサイタルやCD等で共演している。

これまでに亀吉慶子、寺西昭子、ミハイル・ヴォズネセンスキー、野平多美の各氏に師事。

桐朋女子高等学校・桐朋学園大学非常勤講師(ナンバリズムック)。